

# ～キャリアの軌跡～

第5号

2009年 4月15日

長崎大学病院

医師育成キャリア支援室 発行

Careerという単語は面白い。経歴、履歴という意味。生活手段としての（特に専門的な）職業。その職業での成功や出世の意味。発展するという意味。At full career 全速力で！動詞では、疾走する、突進する。ここでインタビューをする人達は、すでに完成したキャリアを持っている人たちではない。今、走り続けている人たち、全速力で。今からスタートラインに立つあなたのために（医学生や研修医の皆さん）、僕が聞いてみた、キャリアの軌跡を。

長崎大学病院 呼吸器内科

泉川 公一 先生



（インタビュアー＆文 医師育成キャリア支援室 浜田久之）

浜田：今日は、呼吸器内科の泉川先生にお越しいただきました。簡単に先生のキャリアの紹介をお願いします。

泉川：長崎出身で、青雲高校を卒業して長崎大学に入り、平成6年に卒業後、呼吸器内科（第二内科）へ入りました。1年目は大学で研修し、2年目は佐世保総合、嬉野医療センターで研修しました。それから、臨床検査医学教室の大学院で4年間学び、その後3年間アメリカのNIH（アメリカ国立衛生研究所）へ留学しました。帰国して、長崎県県庁診療所で診療しながら、大学で研究を続けていました。9か月くらいですかね。それから、東京の虎の門病院の呼吸器センターへ1年くらい行って、大学へ戻ってきて4年が経ちます。

浜田：卒後、様々な経験をなされていますが、医学部卒業後の進路選択についてのエピソードを教えてください。

泉川：当時は、内科医になりたいだけで、第二内科がメジャーな呼吸器、消化器、循環器、腎臓と揃っていたので、ここで勉強すれば一般的な内科医にはなれるだろう、というような軽い気持ちでした（笑）。

浜田：そうですね。私もそんなに深く考えていなかったような気がします（笑）。研修医時代はいかがでしたか？

## 研修医時代の雑用

泉川：同期が12人でしたが当時としては結構少ない入局者でしたので、関連病院のアルバイト等を含めて大変なこともありました。研修自体に関しては、各グループの距離がとても近くて、呼吸器を回っていて心臓に問題があると、すぐに循環器グループに相談できたりしてよかったですね。

浜田：なるほど、大学病院でも垣根が低いということですね。最近は、雑用が多いとかなんとかで大学病院は人気がないんですけど、どう思いますか？

泉川：正直に言っていいですか（笑）？

浜田：もちろん、本音でバンバン言ってください！

泉川：雑用は、多かったですね（笑）。例えば、気管支鏡内視鏡の検査が週に2回あったんですけど、研修医は朝から早く出て来て、機械をセットアップして、患者さんと呼んで麻酔をかけて、指導医が施行できるように準備する。検査が終わると、検体検査のオーダー出しと内視鏡の洗浄をして、機械の片付けまで。もちろん、患者さんのケアをしながらですけど・・・忙しかったですね。それでも、4人くらいの研修医と協力して一生懸命やっていましたね。一人ズルして来なかったりすると大変で、“何で来ないんだ～”とって、喧嘩したりもしましたね（笑）。

浜田：（笑）いや～、耳が痛い。私なんか、さぼって怒られる側でしたから（笑）そういう、雑用は役に立つんでしょうか？

泉川：そういう内視鏡の洗浄なんかは外の病院へ行くとしなないと思うんですが、内視鏡の構造や感染の問題、扱い方や修理がどれくらいかかるか等、そう

いうことを学ぶことができましたね。

浜田：そうですね。そういう基本的なことは、実際手を動かしてやらないと分からないから役には立つんじゃないかと思うんですが・・・

泉川：そうですね。検体の処理の仕方とか、コメディカルにできることも自分たちが全部やるわけですから、どこの処置が危ないとか大切とかが分かりますね。そういうことは一度はやるべきだと思いますね。

浜田：実際、自分が人を教えたりする時に役に立ちますからね。

また、他に振り返って良かったなあ～ということはあるですか？

## 大学病院の利点

泉川：研修医の時はオーベン（指導医）が沢山いました。各グループに一人ずついたんですが、みんな同じストラテジーで教えて頂きました。カルテの書き方から、患者さんの問題点に対するアセスメントや治療プランまで、オーベンによって多少の違いはありましたが、同じコンセプトで教えて頂いたことは感謝していますね。

浜田：ある意味大学では、スタンダードをしっかり教えてくれるということでしょうか？

泉川：そうですね。例えば、毎週の患者さんのプロブレムリストを作り、些細な事へもアセスメントする姿勢とか、要するに基本的な事ですね。

浜田：それが今の仕事に役に立っているのでしょうか？

泉川：役に立っていると思いますよ。IVHとか挿管とか技術的な事はもちろんですが、カルテの書き方や医師として一生やるべき基本を大学病院でしっかり学べたと思います。今は、自分が若い先生へそういう点をしっかり教えるように心がけています。

浜田：なるほど、基本をしっかり学べる点は大学病院の良さであると私も思います。症例ばかりこなすことに一生懸命になり、忙しすぎて基本を勉強する機会のない病院もあると聞いています。ところで、先生はNIHに留学したということですが、どういう経緯で行かれたのでしょうか？

## 研究テーマの変更と海外留学

泉川：感染症の勉強をしたかったので、大学院に入り検査部で微生物学を学んでいました。ちょうど、出血性大腸菌O157のアウトブレイクが目された頃で、大腸菌を使った実験をしたり、レジオネラの研究や、途中から分子生物学的手法を用いた薬剤耐性の研究等をやっていました。大学院を卒業した頃に、教授（河野病院長）から真菌の研究をアクティブにやっている研究所への留学についてお話があり、すぐに行きたい意向を伝えました。

浜田：細菌から真菌へと研究の方向性を変えたのは、大きな決断だったのでしょうか？

泉川：確かにそうですね。教授からも本当にいいのか？と念を押されましたが・・・でも、内緒ですけど、とにかく外国で研究したいという気持ちが大きかったですね（笑）

浜田：（笑）理由はともかく、行きたい！というモチベーションがあることはいいことですよ。

泉川：そうですね。医師として、臨床はもちろん大事ですが、研究や留学をすることにより臨床の深みがでてくると思うんですよ。だから臨床一筋としてだけではなく、いろんなキャリアを積んでいくやり方もあると思います。いろいろと大変ですが、楽しい事もあります。

浜田：NIHは、世界の優秀な人たちが集まる所ですが、いかがでしたか？

泉川：実は、正直日本に比べると楽な所ではないかと思っていましたよ！（笑）

先輩からは、5時には帰れるから。という話も聞いていましたし・・・しかし、行ってみると、実績や結果をすごく求められたので大変でした。ボスも厳しい人で、“それくらい、高校生でもできるんじゃないの！”とか平気で言われていました（笑）。研究テーマが細菌から真菌に変わったこともあり、全然結果がでなくて辛かったですね。

浜田：パラダイス的な幻想から超現実の競争社会へ放り込まれたわけですね（笑）。帰ってこようとは思いませんでしたか？

泉川：帰ることはあまり考えなかったし、何かいいことがあるだろうと思っていましたね。どん底を向えて、体もやせ細ったところから徐々に結果が出て来ました。ボスも頑張っていることを認めてくれて、当初は2年くらいの予定が、延期して実験させてもらえるくらいにはなりましたね。体調壊す位きつかったですね（笑）。

浜田：それくらい、頑張らないと・・・

泉川：そうですね。厳しいラボはもっと厳しいみたいで、土日祝日もなし、みたいなラボもあるようでした。

浜田：そのような体験は、やっぱり今に影響していますか？

泉川：はい。でも、もっと衝撃的な事がありました。911のテロですね。ペンタゴンに飛行機が突っ込んだとき・・・

浜田：当日、NIHにいたんですか？

泉川：はい。NIHはワシントンの近くにあってですね・・・。NIHは国の機関ですから、避難勧告があって、11時には家に帰れということで、車で帰ったんですが、普段なら15分で帰れるところが2時間もかかりました。ラジオからは、セカンド・パルハーバーだ、というアナウンスが何度も繰り返され、日本人としてはとても複雑な心境になりましたね。

浜田：すごい体験ですね。911のリアルタイムを知っているとは。

泉川：アメリカは多民族国家だから、ラボにもいろんな人がいるんですよ。白人から黒人、アジア人、中近東の人まで。そして、それぞれテロに対する考え方が違って、同じCNNのニュースを観ても反応が全く違うんですね。これは、留学の副産物かもしれませんが、それまではアメリカは、豊かでおおらかな国と思っていたんですが、良いことばかりでなく、いろんな側面があることを実感しましたね。

浜田：そういう、視点の広がりが今の仕事に活かされているとか？

泉川：仕事に役に立っているかはわかりませんが（笑）。だけど、ポリティカルなニュースにも反応するようになったし、日本人として日本の国の事を考あ有名な

えるようになりましてね。ポンヤリしていた昔の僕を知っている人は、僕が少し難しい話をすると、どうしたんだ？アメリカで何があったのか？と心配してくれていました（笑）。

浜田：そういう意味では、人生を変えたんじゃないですか？

泉川：そうですね。気骨のある人間になり、日本人として欧米に負けないきちんとした意見を言えるようになりたいと思うようになりましてね。

浜田：先生は、国内留学もしたんですよね？

#### 都会の病院から

泉川：留学というより臨床をしに行きました。長崎生まれの長崎育ちだから、違う空気を吸うことは良いかなあと思い、虎ノ門病院に行かせて頂きました。研修医ではなく、ある程度年をとって行ったのがよかったのか、客観的に外側から病院をみる事ができました。

浜田：若い人たちはどうでしたか？

泉川：虎ノ門病院には優秀な研修医がたくさんいました。ただ、彼らが研修医を終える時期に近づいてくると、その後の方向についてかなり迷うみたいですね。このまま臨床を続けるのか、しかし続けても病院の正規採用のスタッフになれる可能性は少ないし、地元の大学へ戻った方がいいのか・・・等と。しっかり考えないとキャリアを積むことは厳しいと思いました。都会に出たからといって、良いことばかりじゃないみたいですね。そういう人たちが、長崎へ帰ってもバリバリやれるようなシステムを作ればいいのではないかと感じましたね。

浜田：先生、是非一緒に作りましょう！

泉川：（笑）！

浜田：最後に、研修医や若い先生に一言。

泉川：僕も、若いんですけど（笑）。大それたことは言えませんが・・・講義をしても、実習をしても最近を受動的な人が多いから、もう少し元気を出して、教えてください！とか、これは何ですか？とか言って、どんどん研究室や医局に来てもらいたいですね。そういう中で長崎大学病院の横と縦のいい感じの広がりができると思います。

浜田：同感です！

～インタビューを終えて～

9.11テロを経験したり、東京に行ったりと様々な経験を飄々と楽しく話してくれる泉川先生は、“次”世代のエースとして期待しております！

### キャリア支援室の行事予定

2009/4/29（祝・水）13:00～18:00

第2回 長崎・佐賀 若手医師（初期・後期研修医）のための実力アップセミナー

“これだけは、押さえよう！基本心電図&心血管エコー三昧”

※受付は終了いたしました。

2009/5/31（日）12:00～17:00

レジナビフェア 2009 for RESIDENT in 東京

『研修医のための後期研修合同セミナー』へ参加

会場：東京ビッグサイト（西4ホール）

詳しくは、[http://www.residentnavi.com/seminar/seminar\\_gaiyou.php?smno\\_id=10106](http://www.residentnavi.com/seminar/seminar_gaiyou.php?smno_id=10106) をご参照下さい。

2009/7/4（土）14:30～16:30（その後懇親会を予定しています）

第3回 長崎・佐賀 若手医師（初期・後期研修医）のための実力アップセミナー

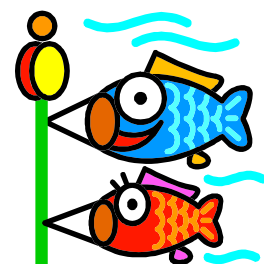
“EMBを押さえよう！”

特別講師に、EBMでお馴染み（著書、DVD多数）+

研修医・レジデントから圧倒的支持を受けている あ有名な

**名郷直樹先生**をお呼びしています。

受付開始日等、詳細は後日お知らせ致します！**乞ご期待下さい♪**



**ホームページも随時更新しております！**  
**下記 URL へアクセス下さい！**



長崎大学病院

医師育成キャリア支援室

TEL：095-819-7847

FAX：095-819-7882

MAIL：career@ml.nagasaki-u.ac.jp

URL：http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/career/

